

令和4年度 日本体育大学卒業式 訓辞

【第二部：午後の部】

本日、学位記を受け取られる卒業生ならびに修了生の皆さん、誠におめでとうございます。日本体育大学の教職員を代表して心よりお祝い申し上げます。また、これまで皆さんを励まし、応援し、支えてくださった保護者ならびにご家族の皆様、本当におめでとうございます。これまでの本学の教育活動へのご理解とご支援に厚く御礼申し上げます。本来であれば、体育学部の卒業生も一緒になって、この旅立ちをお祝いすべきところですが、感染防止の観点から、体育学部を除いた式典となることを、ご理解賜ればと思います。

さて、皆さんの大学生活及び大学院生活は、消毒とマスクが余儀なくされ、新型コロナウイルス感染症への対応に翻弄された3年間でもありました。対面での授業にも制限がかかり、オンラインやオンデマンドといったメディア授業も行われ、その一方では世の中に先んじて学内でのワクチン接種を行うなど、皆さんも大学も、今までに経験したことのない、非日常を送ることになってしまいました。こうしたコロナ禍での経験は、私たちに人と人との直接対面し、コミュニケーションを取ることの重要性やみんなで協働して何かを成し遂げることのすばらしさを再確認する機会を与えてくれました。特に本学は、身体を通して、学び、考えるといった学問のスタイルを歴史的に志向してきた大学ですから、感染症の拡大は、まさに教育の根幹を揺るがす大きな出来事でありました。大学としても、できる限りの対策を講じ、対応してきました。そうとは言え、至らない点も多々あったことと思いますが、皆さんの協力によってこの難局を乗り越えることができました。心より感謝いたします。

さて、いま述べてきたコロナ禍の記憶も今は少しずつ過去のものになりつつあります。「喉元過ぎれば熱さを忘れる」と言いますが、皆さんが経験したコロナ禍に対する克服の歴史は、いつまでも忘れることなく、心の中にとどめておいてもらいたいと思います。間違いなく、この経験は皆さんの今後の人生において意味あるものとなるはずです。

皆さんが卒業後に旅立つ社会は行き先が不透明であり、予測困難な社会であると言われています。新型コロナウイルス感染症にとどまらず、地球温暖化による気候変動や異常気象による自然災害も頻発しています。世界では、ミャンマー国内で起こった軍事クーデターはすでに2年を経過しているにもかかわらず、いまだ収束が見えませんし、またアフガニスタンの首都カブールが陥落してタリバンが復権してから、すでに1年半を迎えています。人権問題や貧困、経済危機は悪化の一途を辿っています。さらにはロシアによるウクライナへの軍事侵攻は、1年が過ぎた今でも終息が見られず、泥沼化の様相を呈しています。このように私たちの身の回りには、時として理不尽なことが、何の前触れもなく起こることもあるのです。そうした意味でも、予測困難な社会と言えるわけです。

これからの社会は地球規模で見れば、人口増加は続きますが、日本国内において人口減少は進み、高齢化は加速化します。このような時代にあって社会をより安定的に持続可能にしていくための条件の一つが、「健康寿命の延伸」であり、ここに近未来の大きな鍵があると

考えられています。人間は身体が資本であり、この資本を抜きに科学技術の発達も経済の活性化も望めないからです。ましてや予測困難な社会においては、なおさら己の肉体は重要となってきます。そうした意味では、本学で学んできた知識と技術を身に付けた皆さんは、間違いなくこれからの社会を様々な形で牽引する人材となるはずです。そうした時代の中で、皆さんには輝いてもらいたいと思います。

より輝くために、この場を借りて、私から皆さんに伝えておきたいことがあります。社会に出たら常に受け身で、与えられた課題の答えを導き出すことだけに全力を尽くすのではなく、自分自身でその場に即した適切な課題を設定して、考え抜きながら、その答えを追求することにもチャレンジしてください。現状を打破するような適切な課題の設定に近づくには、仮説が必要ですが、もう一つは常識を否定することも視野に入れなければなりません。常識を否定するとはわかりにくい言い方ですが、あまりにも常識的な課題設定をしないということです。なぜなら、導き出される答えも常識的な範囲に留まってしまい、そもそも課題を設定する必要がなかったということになりかねないからです。それでは課題を設定するために重要なことは何か、ということですが、それは入手可能なナマの一次情報を集め、この情報に基づいて、何が課題なのかを考えるということです。つまり現場の人々や当事者の声に耳を傾け、そこから始めるということなのです。裏を返せば、ネット情報のように加工されすぎた情報は、それを編集する人の思惑が入り込むわけですから、課題の設定には不向きですし、利用価値が高いとは言えません。この点については、十分に心得ておくとういのではないかと思います。

これからの未来を創っていくのは、皆さんのような若者達です。我が国においても江戸時代の末期から明治時代の初期にかけて、明治維新がなされました。国の在り方を憂い、欧米列強と同じ地位にこの日本を押し上げようとしていたのも、皆さんのような若者達でした。この明治維新のスピリッツにならい、本学でも「日体維新」として様々な改革をしています。皆さんにも変革を恐れない考え方を持ち続けて欲しいと思っています。

どんなに社会が変わっても、自分の人生を前向きに切り開いていくのは皆さん自身であり、皆さんにはその力が備わっているはずです。授業、学友会活動、研究活動、実習、ボランティア、アルバイトなど、多様な活動を通じて皆さんは前を向いていく力を身に付けているはずです。本学での経験を生かし、様々な人と繋がり、課題に立ち向かっていって下さい。日体大生としての誇りをもって、実社会で活躍していって下さい。人生 100 年時代の中で、苦しい時も悩む時もあると思います。しかし、きっと素晴らしい未来が皆さんには待っているはずです。前進なくして変化は起こりえない、ということを心に刻んでおいていただきたいと思います。

卒業生ならびに修了生の今後の大いなる活躍と、なお一層の発展を祈念し、学長としての訓辞といたします。本日はおめでとうございます。

令和 5 年 3 月 15 日
日本体育大学 学長 石井隆憲